

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月1日
函館市立本通中学校

1 本年度の重点教育目標

自ら学び、自己表現力を高める生徒

2 本年度の取組の重点

自己存在感を強く実感させて夢・希望を描いて自主的・主体的に学ぶ態度を育成し《自立》、安心して周囲と関わりながら《共生》自己表現し、表現活動及び創造活動を充実し《創造》、学びの質を高める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学習指導	・基礎学力の定着と確かな学びの保証のためのICT機器の活用 ・自分の考えを説明する力を育てる指導方法の工夫 ・家庭学習の習慣確立に向けた意図的な指導	a		A	A	・家庭での望ましい生活習慣の確立が必要である。
生徒指導	・ルールの徹底と人間的なふれあいを基盤とした指導 ・生徒理解と情報の共有化、組織が連携した迅速な対応 ・特別活動を要とした教育活動の推進 ・望ましい職業観や勤労観、コミュニケーション能力の育成	b	・キャリア教育との関連を明確にした進路指導の充実	A	A	
道德教育	・全ての教育活動との関連を図った全体計画の推進 ・「考え議論する道德」への質的量的転換	a		A	A	
学年・学級経営	・支持的風土を基盤とする学級経営 ・学年団及び学年間の連携と協働体制	a		A	A	
教育課程	・教育課程の評価・改善サイクルの充実 ・地域の人材・資源を活かした教科横断的な教育活動	a		A	A	
特別活動	・自主的・協力的・実践的な態度の基礎を築く学級活動 ・生徒の主体性を育む生徒会活動	a		A	A	・互いのよさに目を向ける機会を増やしていくことで、自己肯定感の高まりが見られる。
健康安全 教育	・性教育、喫煙・薬物乱用防止教室、食に関する教育、がん教育の推進 ・健康・安全指導の充実と危機管理体制の徹底	a		A	A	
校内研修	・日々の授業研究や授業交流を中心とした実践的研究 ・日常的な研修と各種研修会や講座等への積極的な参加	a		A	A	
特別支援 教育	・全教職員による共通実践及び研修 ・はこだて子どもサポートシートの活用と適切な支援	a		A	A	
情報教育	・一人一台端末の生徒の主体的活用を促す各教科等で指導方法の工夫 ・デジタルシチズンシップ教育の意図的・計画的な実施	a		A	A	
連携	・CS(学校運営協議会)を生かした家庭・地域との連携 ・校区内小学校及び市内高等学校との連携	a		A	A	・学校運営協議会を軸とした地域との連携を更に推進させる必要がある。

環境整備	・学校予算等の適正な執行 ・学校管理下での過ごしやすい環境づくり	b	・教材教具の適切な購入計画の作成	A	A	
部活動	・異年齢集団のよりよい人間関係づくり ・適正な部活動数や今後の見通しについての考察、検討	b	・部活動の地域移行を踏まえた具体的な対応の推進	A	A	・部活動の地域移行に向けた取組の、地域、保護者の理解が必要である。
業務改善	・効果的な人材活用・校務運営システムの効果的な利用 ・勤務時間等に係わる各種制度を適切かつ積極的に活用	b	・更なる業務改善を進める体制づくりの推進	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（８割以上）
b	概ね達成できた（６割以上）
c	十分ではない（４割以上）
d	達成できなかった（４割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。